



発行所
財団法人 日本手芸作家連合会
〒160-0023
東京都新宿区西新宿5丁目25番13号
パラガイハイツ 9階C室
電話 03-3374-3359
FAX 03-3374-3352

謹んで新年の御祝詞を申しあげます



会長
岡谷 恭子

昨年は地球規模の経済界の変動がおこり、一〇〇年に一度の台風が吹き荒れているとの表現がなされる程でした。日進月歩が急速に進むなか、人々は目に見えない大きな力に翻弄されそうな不安と世の中の進歩に遅れない生き方に駆り立てられるような慌しさを覚える昨今です。

しかし人々の豊かな感性と美しく心満たされる世界を追い求める生き方は永遠に変わることはありません。それは人間の手と頭が生み出す世界であるという思いを最近とみに感じます。人間の手の持つ魅力は何と不思議な存在なのでしょう。手と脳の働きの関係。人間の手の技が生み出す限りなく魅力に満ちた世界！

人間の育成を「手塩にかけて育てる」と言い、手工芸作品も「手塩にかける」と同じ心境で我が分身とも言わなければならない。そしてそれは回数を重ねる毎に、成長の跡が見えます。

本連合会では人間共通の願望である美の世界の創造を目指す作家や指導者の育成と生涯教育の推進のために次の活動を行っています。

その一つは資格認定。他の一つは創作手工芸コンクールです。前者は自己研鑽部門であり、これについては本連合会では「明日への

新年号

- 第185号 1月号
- ・会長新年度あいさつ
- ・全国支部長・教室長会
- ・平成20年度研修会
- ・第41回創作手工芸展表彰式
- ・筆のむくまに 第14号

平成20年度全国支部長・教室長会開催される

去る平成20年11月27日(木)午後3時から、上野精養軒あやめの間において、1年ぶりに支部長・教室長会が開催されました。

始めに、岡谷恭子会長が挨拶の後、出席者の自己紹介があり、次いで宮川理事長の司会で議事が進行し、充実した討議がなされました。

議事の内容は以下のとおりです。

1 報告事項

- ① 事業報告
庄子常務理事から、前年度の事業について、資料に基づき詳細な報告が行われた。
- ② 財務報告
福島常務理事から、前年度の決算について、資料に基づき報告が行われた。

2 議題

- ① 会の運営方法について
片山副会長から、財務報告のとおり会の財政は逼迫した状況にあり、今後の運営には厳しいものがあるとの説明があった。また、打開策としては、会員の増加が考えられるが、現実には年々減少しているのが実態であり、教室長・支部長には会員の確保に万全を期



してもらいたい旨の要望があった。

②資格審査の基準について

渡邊副理事長から、従来資格審査については、審査時期が一様ではなかったが、最近では創作手工芸展に合わせて申請（出品）してもらい、外部審査員の評価も加味して総合的に審査していることが説明された。また、一度不合格となっても、年度内に再度申請があった場合には、再審査を行うことが補足説明された。

③公益法人制度改革に伴う会のあり方について

宮川理事長から、今年の12月1日から改正法が施行され、全ての公益法人が特例民法法人化するが、本連合会も移行期間の5年間のうちに新制度に移行しなければならず、「公益」と「一般」のどの選択肢を取るか今後特別委員会等で十分な審議が必須となる旨の説明があった。

以上
文責 宮川辰男

平成20年度研修会を終えて

第一部 講演会

晩秋の静かな一時を、文学サロンとも言うべき水月ホテル鵜外荘で、実り多き研修会を行うことができました。この鵜外荘も一つの「出会い」でした。

石井先生は講演「出会い」の冒頭で、人生でのかけがえのない人達との出会いは、自分の人生をも大きく変えてしまう力をもっているとおっしゃり、ご自分の高校時代のこと、大妻コタカ先生との出会い、笹原紀代先生のことなど、まさに人生の出発点で、強い影響力を持った方のお話からスタートしました。

一九六〇年代、ヨーロッパ研修旅行では、服飾工芸界の立役者、ガブリエル・シャネルとの出会いに衝撃的感動を受け、服飾界の動きを世界的に変えてしまう程時代の変化をいち早く捉える鋭い感性と具現力を讃えられました。そして王侯貴族以外、庶民には手の届かなかつた宝石を、イミテーションを用いることにより庶民でも用いられる世界を開拓した事などを熱く語り、新しい世界を創造する人の眼の鋭さを説かれました。そして白洲正子さんも同じ眼をしていると感慨深げに話されました。

又職人と言われる技術者の技の素晴らしさ、説得力のある話し振りに強く、感動し、特に日本の匠といわれる

方の腕前のたしかさと職人哲学ともいべき話の論旨に感動されたようです。そして最高の物を見極める目利きとなることや感動する豊かな感性を養う事の大切さを語られました。



文責 岡谷恭子

第二部 懇親会

講演会のあと、鵜外荘一階にある「富士の間」で和気藹々とした雰囲気の中で楽しく懇親会が開かれました。

ゆつたりと設えられた広間で美しい懐石料理を囲みながら親しく会話を楽しみました。

今回、全国から参加してくださいました皆様方に、地域のご様子を伺いたいと思い、何人かの方にお願ひし、ご活躍のご様子やご挨拶を戴くことが出来ました。

夜も更けて、お名残りを惜しみつつ、またの再会を来年に託し、平成20年度の研修会、懇親会を終了しました。

ご協力を心より感謝申しあげます。 研修会担当 土井・庄子

「出会い

—かけがえのない人たち—

大妻女子大学名誉教授 石井とめ子

晩秋の暮方、上野の森にある水月ホテル鵜外荘でのひと時を、私の人生において出会い、多くの触発を受けた「かけがえのない人たち」についてお話ししました。その概略を列挙してみます。

まず、最初の出会いは昭和二十五年、入学した高等学校は教室に教壇がなく、教師と生徒が同じフロアで同じ目線で自由に話し合える民主的な環境と広い視野で思考することの大切さを学びました。校長先生の発案で仮設の創造門をくぐった印象的な卒業式でした。

●大学受験では、薬学志望から一転して大妻コタカ先生を尊敬する父の命により大妻女子大学へ。

当時、コタカ先生が一目おく笹原紀代先生に出会い、服飾に携わる者の見聞体験を自覚させられました。

●昭和三十九年、北回り世界一周服飾研修旅行では、パリのシャネル店を訪問、シャネル自身に出会い、ファッションショーやお住まいにいたるまで拝見することができ、ここでは、本物というものを直に体験することができました。

●次いで四十年代の日本では洋裁学校やデザイナーの全盛期でした

シャネルの功績は省略。

が裏から支える技術者はほとんど紹介されていませんでした。その折、三宅一生さんも認める仕立て職人、大石真一さんに出会い、コートを眺めました。その味のある仕上がりは後日、デザイナー水野正夫さんにお褒めにあずかり大石真一の職人の技に低頭しました。

●本校の教師の松本光治先生から着物について啓発を受け、また銀座七丁目にあった白洲正子さんの「こうげい」を紹介されました。私の。きもの。は白洲正子さんの眼を通して育まれ、白洲さんとお揃いの着物は今やよき出会いの想い出です。

●ニューヨークプラット美術大学教授の大野順之助先生からは、フランス式とは異なる立体裁断とアメリカ式服飾教育の方法論。布に聞く、というスタンスを学びました。

●卒業制作のドレスに相応しいブーケやアクセサリーがなく、困っていた折、三越本店で尾越婦東子先生に出会い、やっと満足するコーディネートになりました。堀口大学が「婦東子の為に帽子の詩」を贈るほどのセンスの良い方でした。お陰で現在まで、お嬢様の青山桃子先生に引き継がれ二代にわたりお付き合いをしております。

●埼玉大学名誉教授 丹野郁先生との出会いです。先生とは、「西洋

衣服が日本の衣服に与えた影響について」文部省の助成金を得て研究調査をしました。南蛮服飾の調査から戦国武将たちの陣羽織などに日本的な感性と舶来志向が認められました。

●昭和五十二年に京都国立近代美術館で「現代衣服の源流展」が開催されました。私にとって衝撃的な出会いになり、ここで初めて現代衣服の源となったデザイナーたちの実物の服をみて衣装哲学を目の当たり実感し、多くを学びました。

●風俗史学会理事 中山千代先生方と「鍋島家の遺品調査」に協力しました。江戸後期の打掛けを見事にリフォームしたバックスル・ドレスに出会い、日本でのジャポニズムに眩惑させられました。このドレスは損傷が激しく、N氏が修復後、私の研究室で再々修復して完成させた結果、国内外に展示されました。このほか仮装舞踏服など明治という洋装黎明期の衣裳を調査し、「鹿鳴館時代の衣裳」の研究に取り組むことになりました。

●昭和六十年代には「大妻学院の制服の変遷」並びに「大妻コタカ先生の衣装について」大妻学院理事柳葉キヨ先生の協力を得て調査整理し、本講演では四点を選んで「もの」との出会いを通してコタカ先生の人間像を紹介しました。

創作手工芸展審査によせて

文化女子大学主任教授 林 泉

手芸作家連合会も41年の歴史を継続できたのも皆様のこのような創作展があったからこそだと思います。今年の作品も様々なジャンルの多くの作品が寄せられ審査員7人も慎重に且つ厳正に審査をいたしました。

第1位の文部科学大臣賞を受賞なさった「なごみ」大浜さんの刺繍は様々な刺繍の技法を駆使した見事な作品でした。第2位の東京都議会議長賞の「牡丹」土井さんの欧風刺繍は大輪の牡丹の花が屏風にモノトーンの色彩に薄くピンクの色がグラデーションされ、和室、洋室でも違和感なくなじむ現代と古典の融合が見事でした。第3位の大妻コタカ賞の召田さんの「そう翠」ヨーロッパ刺繍は、水芭蕉の白と淡いグリーンの色でまとめられ、ベーシックな技法と現代の感覚が表現されていました。日本手芸作家連合会会長賞「生命の泉」シェーネアルバイテンは金線、銀線、数珠玉、などを円や曲線などで表現し、ぶなの木(実)を添える事により自然の美が表現された新しい技法が評価されました。審査委員長賞「森の楽園」シャドールボックスは、写真を何枚も重ね

立体的に三次元の世界が、森の木々、動物、風景などで表現され、従来の平面から立体へ絵画や刺繍の領域を広げる作品でした。優良賞・奨励賞・努力賞など様々な賞を受賞なさった皆様の作品はそれぞれ評価された作品です。私も審査委員として4年目になります。益裁工芸・創作粘土・人形・押絵・フラワーデザイン・洋服など今回は木彫・ステンドグラスなど多彩な作品が多く手工芸の領域も広がりを見せ、日本手芸作家連合会の発展につながる感じがいたしました。

皆様が作品のテーマを広げる事により、素材の選定、色、デザイン、更に技術の広がりや奥深さになるのです。自分の身近なもの、又、自然、人口的な様々なものに興味を持つ事により、作家としての才能が育成されていきます。作品を作る事により作る過程の忍耐と努力は出来上がった時の達成感と喜びにつながります。来年も皆様の素晴らしい作品にお目にかかれ、楽しむことを楽しみにしております。



会場風景

受賞者のことば

文部科学大臣賞

「なごみ」 刺繍



文部科学大臣賞

このたび 第41回創作手工芸展に於いて文部科学大臣賞という名誉ある賞をいただきまして、心から嬉しく感謝申し上げます。41回にも及び、毎年開催されております創作手工芸展に「一年に一作は精魂込めた作品を創ろう」を合言葉に目標を持って私共グループ皆で励んでおります。それは、やりがいのある充実した日々を過ごすことができる大変幸せなことだと思っております。

このたびの、私の作品は古いグレーの夏物麻の和服地に紫・緑・黄・グレー等の糸で草花の刺繍を、又ベージュの麻の布にシルバークレーの糸一色でハーダンガーワークで刺繍をして二枚の布を合わせ作品にしました。

東京都議会議長賞

「牡丹」 刺繍



東京都議会議長賞

異素材の布・異種類の技法のバランス、その分割・配置のバランスそれが大変難しく先生のご指導・ご助言もいただきながら、何とか完成させることができました。その作品にこのような名誉ある賞のお知らせをいただいた時には急には信じるのできない驚きでした。もしかすると人間違いではないかとさえ思った程です。

頂いた通知書を何度も眺め、やっと信じることができ家族やグループの皆さんにも喜んでもらいました。

今後、この賞の名に恥じないよう見聞を広め引き出しをたくさんつくって私自身を高め、それが温もりのある作品創りにつながればと思っております。

このような盛大な発表の場をつくってくださる日本手芸作家連合会に深く深く感謝いたしております。

御会のご発展と先生方のご健勝を心からお祈り申し上げます。言葉不足でございますが、お礼の言葉とさせていただきます。

文部科学大臣賞
大浜詩子

大妻コタカ賞

「そう翠」 ヨーロッパ刺繍



大妻コタカ賞

伝統ある(財)日本手芸作家連合会の創作手工芸展に栄誉ある東京都議会議長賞を戴きました事は身にあまる光栄と存じますと共に心から感謝申し上げます。

又、第40周年記念の時にひきつづきの受賞で嬉しさ、幸せをかみしめております。

歳を重ねるごとに穏やかな気持ちが入り、自然と自分にとって気分のよい作品創作をするようになってきました。これが私にとって一番の生涯学習と実感しております。

今後(財)日本手芸作家連合会の益々の発展を心からお祈り申し上げます。

東京都議会議長賞
土井イミ子

第41回創作手工芸展に於いて名誉ある大妻コタカ賞を喜寿の年に受賞し、二重の喜びに感謝と幸せでいっぱいでございます。長年ヨーロッパ刺繍で日本の風景を刺し度いと思っておりました折、鬼無で清らかな水に咲く水芭蕉と残雪の山、この景色に魅せられ刺し始めましたが彩色せず糸だけで表現する難しさに、刺しては眺め、眺めては刺しの繰り返しで、とうとう四年の歳月が流れました。唯々刺す事が好きと云うだけの私を栄誉あるこの賞を戴く迄にご指導下さいました、小布施公子先生、森田富士子先生、土井イミ子先生に感謝申し上げます。最後に(財)日本手芸作家連合会の益々のご発展を心よりお祈りいたしまして、お礼の言葉とさせていただきます。

大妻コタカ賞
沼田晃子

日本手芸作家連合会会長賞

「生命の泉」輝きとともに
シェーネアルバイテン



日本手芸作家連合会会長賞

第41回創作手芸に於いて、大変名誉ある「日本手芸作家連合会会長賞」を戴き夢の様な驚きと感激でいっぱいでございます。この度の作品は、フラワーデザイン講師認定の為の一環でもあり、一層力が入りました。細やかな制作ご指導をして下さいました先生方そして友人達の励ましを深く感謝いたしております。

作品ですが、「水」をテーマとし、様々な水の表現を母なる大地の中に、金線、銀線を使ったシェーネアルバイテン(美しい手仕事)という技法でデザインしました。そして母の愛と温もりを黄金のパラで想いを綴り輝きを添えました。素材や色、形を決め、ひとつひとつ創作していく愉しみ。そして歴史の中のデザインの知識を知る喜び。想いを形にしてエネルギーを注ぎ込み仕上がっていく過程は素晴らしい、毎日が充実感で満たさ

れました。人生の中の一コマに過ぎませんが、色濃い一コマとなることでしょうか。まだまだ技術の浅い私ですが、この栄誉ある賞を戴いたことを励みとして、これから一層努力を重ねて参りたいと思

います。

最後になりましたが、財団法人日本手芸作家連合会の益々のご発展と、先生方のご健勝を祈念いたしまして、お礼の言葉とさせていただきます。

日本手芸作家連合会会長賞
黒米佳弘子

審査委員長賞

「森の楽園」

シャドーボックス



審査委員長賞

この度は日本手芸作家連合会に於いて、審査委員長賞を頂戴し、身にあまる光栄に存じます。作品シャドーボックス「森の楽園」は繊細かつ躍動感にあふれ、パワーが皆様に伝わるよう一意専心の気持ちを持ち無我夢中に創作した物でした。ある日入賞通知が届き驚き

と喜びが交差する日々、紙の魅力に取りつかれ現在まで足り続けて来て本当に良かったとの思いです。

私が常日頃から大切に思う言葉、日々修業を胸に、邁進していく所存でございます。今まで支えて下さった沢山の皆様に感謝の念と、本機会を下さいました日本手芸作家連合会に、深く深く感謝します。これからも日本手芸作家連合会の益々の発展を祈願しまして、受賞の言葉にかえさせていただきます。

審査委員長賞 石田則子

創作手芸展における

デモンストレーション

一次、二次募集の結果、カトレア支部教室(11月26日)リビエール教室(11月28日)が創作手芸展会場にて其々の展示作品の制作過程を披露しました。

カトレア教室の「欧風刺繍」による屏風、下絵の見事さと色使いに多勢の見学者は魅了されました。リビエール教室の「シェーネアルバイテン」、修道院の古い技術が純金銀の立体手芸として魅了した経緯が紹介され、ジャンルを超えて高い関心を集めました。

初の「デモンストレーション」でしたが、出展種目を深く紹介し、作家の交流の場として創作手芸展に新たな展開をみせました。

文責 片山理恵子

創作手芸展を終えて



第41回創作手芸展は、40回を越えて45回・50回に向けての第一歩ということで、新たな気持をもって開催されたものでした。今まで続けてきて下さった、先輩・諸先生方に感謝しつつ、又若い方たちの新しい目を大切に延ばしていきたいという、連合会の趣旨に、会員の皆様のご協力はもとより一般の方々からの応募も多数あり、一点一点の作品から伝わってくる力に圧倒される思いでございます。その様な作品のお陰で見応えのある創作手芸展を開催することが出来ました。これは一重に会長をはじめ副会長・理事・実行委員の方々・支部長・教室長の方々の、実際にお手伝いに加わって下さった方々のご助力によるものです。紙面をお借りして心より感謝し、御礼申し上げます。

ありがとうございます。

同時開催のハンドクラフトコレクションの方への作品も力作揃いで作者が大切になさっていらつしやるものをご覧いただけたかと思っております。夫々の方々がそれぞれの「道」を頑張って進んでいらつしやることに温かいものを感じました。今後も皆様の素晴らしい作品を期待し、会が益々発展していきますようにと祈っております。

実行委員長 渡邊弘子

筆のむくままに

第十四号

一音楽愛好家として

理事 齊田晴一

今から丁度50年前の昭和33年は初めて一万円札が発行され、日本が高度経済成長の緒についた年でありました。大学に入学したばかりの私は、当時偶に来日するイタリアオペラや欧米の有名オーケストラのチケットを手に入れるため徹夜で行列したことを覚えております。今では世の中大変便利になり、電話やインターネットで予約をし、近所のコンビニで発券してもらおうと云うシステムを利用出来るようになりました。

当時は音楽会の回数も少なく、チケットの値段も高く(今でも決して安くはありません) 気まじめ

な日本人は親の仇でも討ちに行くかのような形相で公演会場に出掛けたものでした。服装も男子学生は詰襟、社会人は男女共スーツ姿が相場でした。日本が豊かな成熟社会を迎え、コンサートの数も飛躍的に増え、音楽の都ウィーンを遥かに凌ぐマーケットが東京を中心に出て来ております。日本は文化的にも成熟したかに見えますがしかし最近では、昼であるならばまだしも夜のコンサートにセーター・ジーン姿で現れる人が少なからず見受けられ、これは如何なものかと思われれます。音楽が身近になったと云う点では結構なことですが、演奏家に対する敬意も含め、もう少しTPOを考えてほしいと思います。

昨年日本国中で開かれた演奏会の数は何と一四七〇回でありました。その内、箏・尺八・三絃等と和楽器による邦楽の演奏会は僅かに八六回でありました。世界中どの国でもその固有の民族音楽を大切に扱っておりますが、我が国の民族音楽である邦楽は誠に地位の低い存在であります。戦後日本の音楽教育は一〇〇%西洋音楽であり、この甚だ片寄った教育が大きき原因と思われれます。邦楽と云うと何か古くさいもの、遅れたもの、と云う印象を大方の日本人は持っているのではないのでしょうか。

最近はやや改善されつつあると聞いておりますが、一層の邦楽教育の振興が望まれます。

音楽を聞く方法としては、生演奏によるものとCD・DVD等録音(画)されたものがあります。私は専ら生演奏に触れるよう心掛けております。生演奏は録音されたものからは得られない演奏家の息づかい・情熱・パワーが直に伝わって参ります。手芸の作品も手を通じて制作者の芸術性・創造性が発揮され、情熱と思いが伝わって来るものであります。機械製では決して得られない感動が生まれるものであります。財団法人日本手芸作家連合会の存在は誠に貴重であり、ますますのご発展を祈つてやみません。

平成20年度 免状・修了証取得者

教授免状

佐藤郁恵(神奈川)

助教授免状

谷水奈穂子(広島)

庄子悦子(神奈川)

講師免状

柴崎玲子(千葉) 小林厚子(埼玉)

矢野好美(東京) 黒米佳弘子(東京)

板野満代(神奈川) 北村亜衣(東京)

森 昌子(福岡) 宗和征子(福岡)

大橋芳子(広島)

高等科修了証

行川千代子(東京) 古井まり子(東京)

青山京子(神奈川) 和田美代子(茨城)

横島留美(広島) 北村亜土(東京)

普通科修了証

金川郁子(東京) 藤岡とみ子(東京)

福田博子(神奈川)

新入会

横島留美(広島) 大橋芳子(広島)

福田博子(神奈川)

事務局だより

チャリテイ御協力御礼

皆様から作品御協力いただきまして、社会福祉法人NHK厚生文化事業団にも例年通り寄付することが出来ました。手作りの品の温かさをご来場の方々にも喜んでいただくことができました。ありがとうございました。

創作手芸展実行委員長

渡邊弘子

電話番号

03(3374) 3359

ファックス番号

03(3374) 3352

メールアドレス

info@syugei-sakk.jp

URL

http://www.syugei-sakka.jp

郵便振替口座番号

00100・5・85006